

## 英国学校給食 & 子どもの食生活に関するレポートⅣ

(財)学校給食研究改善協会 評議員: 鈴木美保子

### 1. ついに英国でも学校給食の本格的な大改革が始まった!

先月から、全ての小学校(5歳~11歳)で、スクールフード・スタンダード(下記※<sup>1</sup>参照)が実施されるようになり、2005年に設立されたスタンダード策定のための準備委員会が、いよいよ本格的な学校給食及び子どもの食生活向上のための大改革を開始した。それまで学校給食問題に対する取組みはほとんど放置されてきたが、英国中に巻き起こった昨今のヘルシー志向とグルメブームも手伝って、この大改革達成への真剣な取組みは、目を見張るものがある。様々な団体がそれぞれの立場から多種多様な活動を活発に行っている様子は、前回のレポートでご紹介した通りである。

しかし大改革には当然、資金問題や抵抗があり、毎日のようにTV番組や新聞紙上、あるいはインターネット上でこれに関連した議論が行なわれている。今回は、そんな中から特に注目されるいくつかをご紹介しますと思う。

### 2. 改革の推進におけるさまざまな困難

改革される前の英国の学校給食は、「子どもの健康増進のために、望まれる食習慣を指導する」といった教育的な視点による取組みとは全くいえず、食と健康の重要性をある程度認識している親や、家庭内で既に食生活や味覚に対する認識をこのような親から教えられて育った子どもからは、学校給食は「まずくて健康によくない」と評判が悪かったのも当然のことといえる。

年収 12,000 ポンド以下(下記※<sup>2</sup>参照)の低所得家庭の子どもには、行政の援助により、給食は無料で支給されることから、英国の学校給食は健康によいとか美味しいとかコメントする前に、まずお腹を空かせた子ども達のための給食となっていた。

今回の改革で、学校給食の内容は健康にもよく美味しいメニューに変わってきたものの、これまでに定着してしまった悪評をなかなか消すことは難しいようだ。

前回紹介したインターナショナルスクールのように、学校給食が全校生徒に実施されている学校は特殊な例であり、ほとんどの学校では、給食・弁当持参・買って食べる

---

※

<sup>1</sup> スクールランチの栄養成分の基準を定めるほか、食材の向上、施設の充実、スタッフ教育を推進するなど、2006~2009年までの4年間をかけて、徐々に学校給食の内容を改善していく新たな基準

<sup>2</sup> 大卒の初年度年収は 25,000 ポンド程度

など生徒(家庭)が自由に選択できる。このような背景から、「給食が美味しくヘルシーになりました。もっと給食を食べましょう！」と単に呼びかけるだけでは、生徒の給食離れを克服するのは容易ではないといえる。

一方、英国では、改革される前から学校給食を実施してきた学校であっても、そのほとんどが給食の運営を民間給食業者に任せている。この給食業者も民間企業である以上、利益を追求しなければならないのは当然のことである。

そこで、この度の改革に伴い、政府は無償で給食事業に従事する関係者の研修を実施し、厨房設備改善のための補助金も助成している。しかし、スクールフード・スタンダードの基準に副った素材や、栄養価の条件をクリアするには、これまでよりも費用がかかるのは当たり前で、このことが多くの給食業者の収益を圧迫しており、負債超過に陥っているケースもあるという。

これでは、そもそも学校給食制度自体の存続が困難となり、「改革が先行するあまり、制度自体が壊れてしまうことになりかねない」と警鐘を鳴らす評論が目立つようになった。これに対してスクールフード・トラスト(下記※<sup>3</sup>参照)は、この問題を解決するために、給食実施率を上げて経費節減などの合理化を図り、食数を増やすための自助努力を給食業者に求める一方、自らもいろいろな対策を練って、食数アップに向け取り組んでいる。

### 3. 学校給食推進に向けてのユニークで大掛かりなイベント

学校給食推進に向けて、スクールフード・トラストが取り組んでいる内容は多岐にわたるが、なかでもユニークなものは、子ども達に人気のディズニーミュージカルとタイアップしての大々的なキャンペーンである。その内容は日本では到底考えられないほど以下のように、大掛かりで奇抜なものとなっている。

#### ☆キャンペーンタイトル

『ジャンクフードを追放しよう！健康的な学校給食を食べよう！』

#### ☆内容

学校対抗で生徒が食べた給食の食数を競い合い、その優勝校にはディズニー主催の大ダンスパーティーが学校で開催され、このパーティー会場は、学校のダイニングルーム(心憎いばかりの演出?)、また子どもの憧れの的であるミュージカルスターらがこのパーティーに招致される。

日本では想像し難いことだが、英国ではダンスパーティー(ディスコパーティ)は子ども達の生活に深く浸透している。誕生日会・試験期間明け・クリスマス・卒業式・お別れ

---

※

<sup>3</sup> 学校給食及び食教育改善を目的として設立された独立行政法人

会・・・などことあるごとに、仲間同士集まって、部屋の照明を落とし、ノリの良い音楽をかけて夜中まで踊りまくるのである。富裕層では、プロの DJ を招くほどの熱の入れようで、中高校生はもちろん、小学生の時から日常的に楽しまっている。

その点に眼をつけたこのキャンペーンは生徒達の心をしっかり掴む効果は抜群となり、給食食数は大幅に増加、給食業者や学校、また給食事業運営に補助金を出している地方公共団体からも、感謝の声が多数寄せられているという。

給食業者自身も、週に1日は free meal day を設け、給食を無料にしたり、保護者を給食試食会に招くなどして、給食が美味しくヘルシーに生まれ変わったことを知ってもらうための取組みを多くの事業者が実施している。試食させ、納得させて買ってもらうという、食品販売によくある方法である。



キャンペーンのポスターが街中に掲示されていて、盛り上がりを見せている

<http://www.myhighschoolmusical3.com/sft/>より

#### 4. 給食摂食率アップの効果は？

これらの取組み努力による実際の食数の増加率についてだが、残念ながら英国全体の数値は未だ公式には発表されていない。しかし、ある私立学校では2年前57.3%が74.7%に、ある公立学校では30%から35.6%に上昇した。まだまだ改革は始まったばかり、今後の数値の伸びが期待される。

#### 5. 学校給食推進に向けて今後の取組み

スクールフード・トラストの今後に向けての取組み計画は、2011年までに全てのプライマリースクールの全生徒に対して、無料で学校給食を支給する。すなわち、これまでの年収 12,000 ポンド以下という制限を廃止して、全生徒がそろって学校給食を食べるということになる。

これが実現すれば、政府(中央・地方とも)予算は大幅に増えるが、それでも、育ち盛りの子どもに質の高い健康的な食事を提供し、生涯を通じて健康的な食選択をする能力を体得させるという教育の大きなメリットは、たとえ数十億ポンド(数千億円)の費用がかかっても惜しくないという政府は断言している。

もっとも、このような発想は、英国経済の破綻が表面化し、毎日のように金融危機が報道されるようになる以前、この夏の発表によるものだが、目標年まであと3年、その推移を見守りたいと思う。

以上

ファイル名 : 英国学校給食レポートIVポスター入  
フォルダ : C:\Documents and Settings\nosaka\Desktop  
テンプレート : C:\Documents and Settings\nosaka\Application  
Data\Microsoft\Templates\Normal.dot  
表題 : 28th  
副題 :  
作成者 : suzuki  
キーワード :  
説明 :  
作成日時 : 2008/11/18 16:31:00  
変更回数 : 3  
最終保存日時 : 2008/11/18 16:33:00  
最終保存者 : m-uno  
編集時間 : 5 分  
最終印刷日時 : 2008/11/19 8:30:00  
最終印刷時のカウント  
ページ数 : 3  
単語数 : 426 (約)  
文字数 : 2,432 (約)